

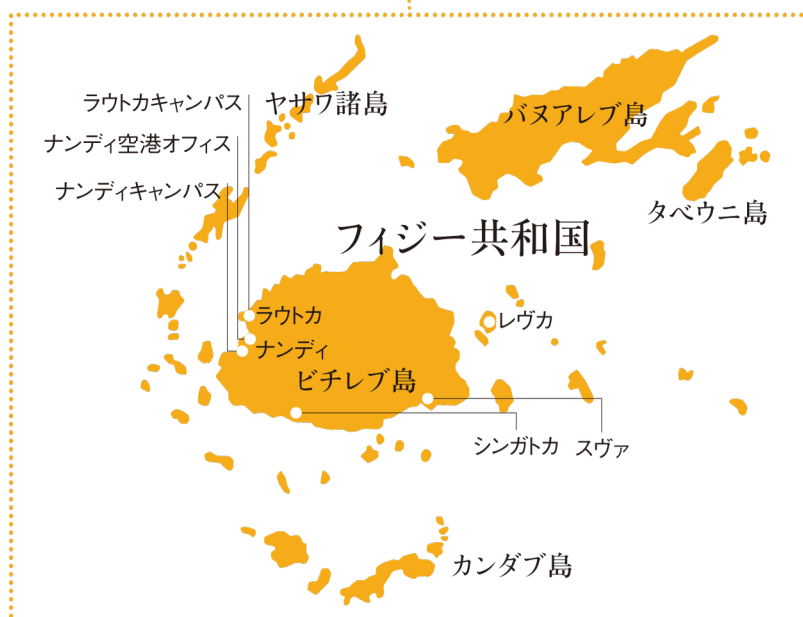
フィジーの 紹介

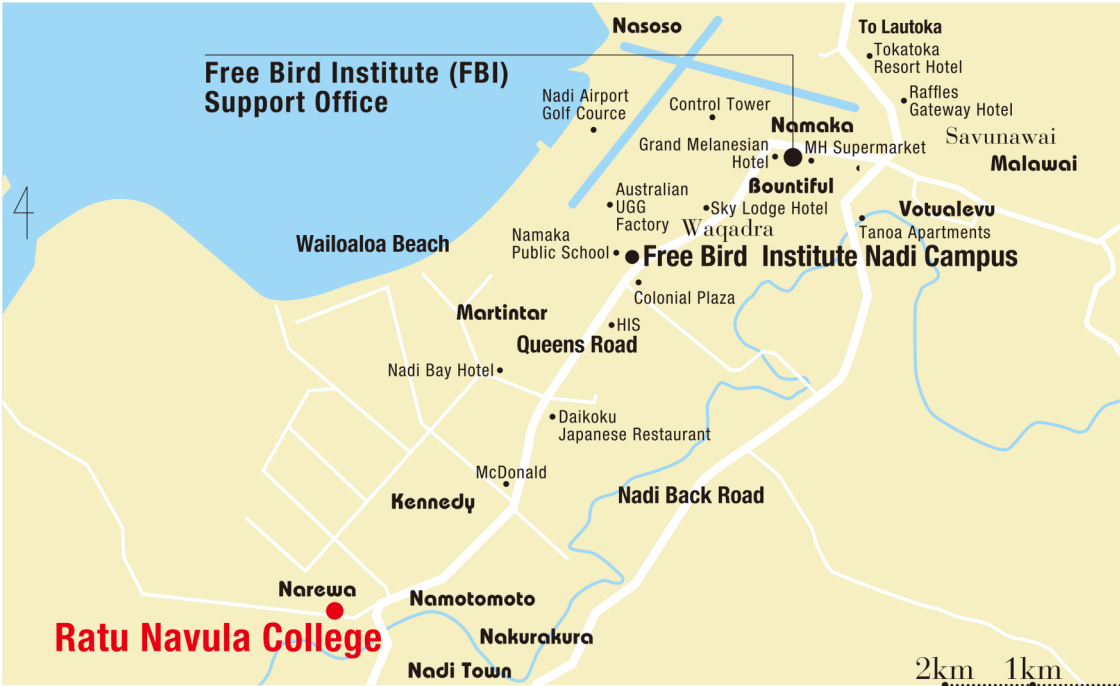
フィジーの基本情報

正式国名	Republic of Fiji (フィジー共和国) 首都: スヴァ
人口	333の島からなる、人口92万人（日本の四国と同規模）
時差	+3時間
言語	公用語は英語。ほかにフィジー語、ヒンディー語を一部で使用
民族構成	フィジー系／約56% インド系／約37% ヨーロッパ系／約4% 中華系／約3%
気候	年間を通して暖かく、月平均気温23℃～28℃。年中泳ぐことができます。雨季と乾季の区別があり、雨季は雨が集中的に降ることも稀にあります。ナンディやラウトカのあるヴィチレブ島西部は東部に比べて雨が比較的少なく、過ごしやすいです
通貨	フィジドル(F\$) 1FJD≒65円
物価	コーラ1缶 160～180円 食パン／65円 バス初乗り／65円～ ※あくまでも一例です。

Fiji

フィジーって
どこに
あるの？





Nadi

ナンディ

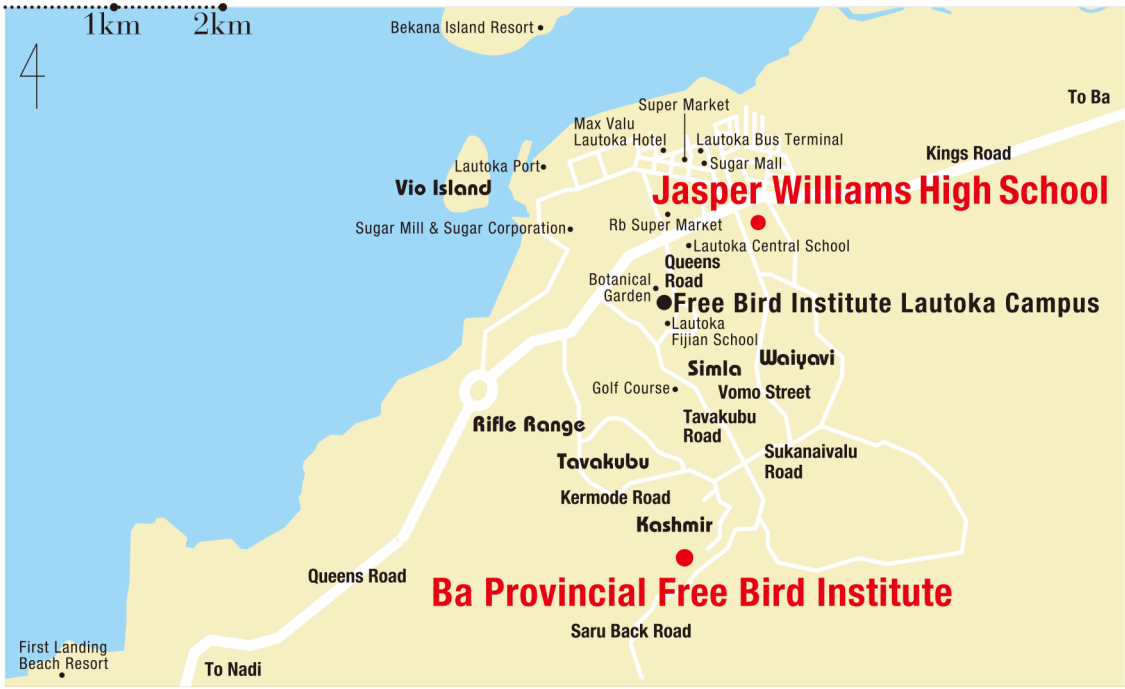
フィジーを訪れる海外からの旅行者の多くが立ち寄るのが、国際空港のあるナンディです。フィジー第三の街として栄え、平日でも街の中心地は賑わいを見せています。旅行者向けのお土産物屋さんや、ショッピングモールなどのほか、ホテルやレストランなどの宿泊施設も整っています。



Lautoka

ラウトカ

フィジー西部に位置するラウトカは、首都スバに次ぐフィジー第二の街です。サトウキビの精製が盛んで、地元の漁師たちの漁港としても栄えています。多くの旅行者が滞在するナンディと比べると、より地元の人たちの生活に根ざしたお店が多いことに気が付きます。



キャンパス指定は出来ません。予めご了承ください。

フィジーで英語を 学ぶ3つの魅力

国全体が学びの場

旧英国領の楽園フィジーは、
美しい海、手付かずの自然、
心優しい人々が待つ国。
人種、国籍、英語のレベルに関係なく、
生活している地元の人々と
あらゆる場所で英語が話せる環境です。

1 フレンドリーな 国民性で英語力を 伸ばしやすい

フィジーはホスピタリティが
高い国として知られています。

‘friendliest people on the planet’ By lonely planet

世界最大の旅行ガイドブック

幸福度指数1位

「GALLUP」社による「End of Year Survey 2017」

「互いの人を思いやり、互いを助けあう」という文化的背景・習慣があり、外国での生活に自信がない方に対しても、フィジーの人々はこの精神をもって接してくれますので、ホームシックや疎外感を感じることはあまりありません。とても優しく、人懐っこく、陽気でフレンドリーなフィジー人の笑顔に誘われ、シャイな日本人でも、心を開いて会話を楽しむことができます。学校だけではなく、国全体が英語の先生です。少し勇気を出して、話しかけてみてください。街中で、見知らぬ人と気軽に会話をスタートさせることが当たり前で、英語を話している自分に気づいたとき、フィジーに留学した理由がきっとわかるはずです。



3 娯楽がないため、 学習に 集中できる環境

フィジーは世界有数のリゾート地として知られていますが、人々が暮らす町には近代的な娯楽は皆無です。日本の都会のように、夜まで遊びにいく大型娯楽施設がないため、フィジー人は「人との会話を楽しむ」生活をしています。子供の頃にタイムスリップしたように、放課後・休日は日が暮れるまで、たくさんの人と接して、英語でコミュニケーションを取ってください。パソコンやスマートフォンから離れ、人との会話を楽しむ。そんな環境がフィジーには残っています。英語習得の一番の近道は、実践で多くの英語を使うことです。



2 留学 費用が安い

フィジーの物価は日本や先進国に比べると非常に安価です。その為、過ごし方にもよりますが、1ヶ月約2-3万円で生活することができます。また、授業料やホームステイに支払う費用も他国に比べると安価なため、同じ費用でも先進国の1.5倍～2倍の期間、長く滞在し、勉強することが可能です。節約できた費用を週末の様々なアクティビティに使い、留学中にダイビングのライセンスを取得することもできます。基礎的な日常会話を身につけるまではフィジーで格安に勉強し、近隣のオーストラリア・ニュージーランドで専門分野(ツーリズム・ビジネス・児童英語教師・エステ)やワーキングホリデーなどにお金を使うという、コストパフォーマンスの高い留学スタイルが、近年人気を高めています。

オフタイムの 過ごし方

オフタイムに現地の文化や生活に触れることも留学の大きな醍醐味です。
ここでは様々なオフタイムの
過ごし方をご案内します。

出かける

市場・スーパー



市場では新鮮な野菜や果物を格安で買うことができます。滞在先で日本食を作って家族や友人に振る舞うのもよいでしょう。

また、大きなスーパーではたいいていの日用品が入手できます。ナンディでは、ナマカ・ナンディエリアに大きなスーパーがあります。ラウトカでは中心にあるショッピングモール「シュガーモール」を中心に、たくさんのお店やレストランがあり、いつも面白い物客で賑わっています。



レストラン

インド料理、中華料理、イタリア料理、日本料理、韓国料理等のレストランがあり、特にインド料理はフィジーのレストランの半分以上を占め、本格的かつ非常にリーズナブルな値段でインド家庭の味が楽しめます。そのほかに、ピザやバーガーなどのファストフード店もあります。なお、フィジー料理のレストランはほとんどなく、フィジー料理を食べるにはホテルに行くか、現地の人々が催すパーティーに行くしかありません。

スポーツセンター

ナンディのナンディタウン近くにあるナンディスポーツクラブやラウトカキャンパス近くにあるノーザンクラブでは、テニス・スカッシュ・水泳等が楽しめます。

離島クルーズ

本島から船で30分～1時間ほど行くと、珊瑚の美しい海が広がっており、小さな離島が点在しています。離島では、たいいてい宿泊することができ、ダイビング、シュノーケリング、バナナボート、パラセーリングなど、さまざまなアクティビティーが楽しめます。



フィジー温泉巡り

ナンディからバスで20分のところにはサンベト温泉（泥温泉）があります。何も整備されていない温泉ですが、周りにサウキビ畑が広がり、牛がいて本当にのどかな温泉です。





乗馬

ナッタンドラビーチの近くのサナサナ村では乗馬を楽しめます。ゆっくりゆったりリゾート気分が味わえますよ!



ゴルフ

有名なプロゴルファーのビジェイ・シンは、実は語学学校Free Bird Instituteに隣接する小学校『Namaka Public School』の卒業生です! ナンディにはゴルフコースがたくさんあります。プレイ料金は15F\$ ~程度です。

シュノーケリング

スキューバダイビングも良いですが、透明度の高いフィジーの海ならシュノーケリングで十分! 離島に行ったら、ぜひシュノーケリングをしてください。離島では、シュノーケリングセットを貸し出しています。

サーフィン／ボディーボード

ナンディからバスで40分のナッタンドラビーチ、50分のクルクルビーチはフィジー人サーファーも通っているサーフポイントです。また、有名なタバルア島、ナモツ島では一年中サーフィンのビデオが撮影されています。ただし、ここは30メートルの波のくる上級者向けのポイントです。

ジェットスキー

リゾート施設にはジェットスキーが置いてあります。波の高い日は利用できないこともありますが、これもハワイなどと比べて半額くらいで利用できます。



触れ合う

ボランティア

老人ホーム (Natabua old people's house) や孤児院 (Treasure House Children's Home) におけるボランティアができます。

※学校では手配できない為、ご自身でお問い合わせ下さい。

バックパッカー

バックパッカーとは、格安で一人旅(個人旅行)をすることです。ドミトリ等の安い宿に宿泊し、1部屋に複数人数と一緒に宿泊するスタイルです。世界各国のバックパッカーと寝食を共にするので、友達ができるチャンスがいっぱい。バックパッカーに人気があるのは、デナラウ港から40分の人気ビーチリゾートであるBounty Island Resortや、デナラウ港から30分の人気ビーチリゾートBeach Comber Islandなどがあります。



FEEJEE Experience

「FEEJEE Experience」とは、数日間かけてフィジーを周るツアーです。半周、一周、バヌアレブ島に飛ぶなどさまざまなプランがあります。現地の村を回ったり、海に行ったり、さまざまな体験ができます。世界各国からの旅行者と一緒にグループになって周るので、普段できないような友達ができるかもしれません。鍛え上げた英語力を試すチャンス!

<http://www.feejeeexperience.com/>

ゴスペル

日曜日はぜひ教会に行ってください。美しいハーモニーで歌われるフィジーのクリスチャンソングには心を奪われるはず。許可の要るようなものでなく、誰でも気安く受け入れてくれるのがフィジーの教会です。仲良くなればお昼ご飯もご馳走になれますよ。

注意:教会に行くときは、露出の激しい格好は控えましょう。

ハンディクラフト

フィジーでは、フィジー人女性がブレスレットやアンクレットなど、フィジーならではのハンディクラフトを作っているのを目にするはず。作り方を教えてもらいましょう。ブイブイと呼ばれる葉っぱの繊維から作られるハンディクラフトはおみやげにピッタリです。



ビレッジ(村訪問)

フィジーには日本の生活からかけ離れた、ビレッジ(村)が点在しています。川で洗濯をしていたり、電気が通ってなかったりと、日本の生活からはかけ離れていて、びっくりすることもあるかもしれません。しかし、不便ながらもフィジー人の暖かさに包まれて、貴重な経験ができると思います。

